

# 地域の終末医療における 多職種協働による口腔ケア支援に関する研究

夏目 長門 ●一般社団法人日本口腔ケア学会 理事長



終末期がん患者への口腔ケア（患者の許可を得て撮影、下郷麻衣子先生提供）

## 1. 背景と目的

終末期患者の口腔ケアは、家族とコミュニケーションをとり、経口摂取を支援し、死の質を高めるためにも非常に重要である。口腔ケアは職種間の連携が必要であるが、在宅では特に職種間の連携が疎になりやすい。現在、終末期を迎える在宅患者への口腔ケアは、多数の職種が関わるものの、誰が何をどこまで行うのか、終末期に関する各職種の役割分担については不明な点がある。

そこで本研究では、地域におけるがん末期患者に焦点を当て、口腔ケアに関する実態調査をし、各職域別に口腔ケアマニュアルを作成することを目的とする。

## 2. 取り組みの方法

### スケジュール

2021年6月：調査票の作成、倫理委員会で承認

7月：実態調査開始

10月：集計

12月：解析

2022年2月：口腔ケアマニュアル作成

4月：日本口腔ケア学会にて学会発表

調査対象者：終末医療を行う多職種専門家

## 調査方法および調査項目

調査用紙作成。“終末期がん患者の口腔ケアに関する実態調査”の実施。

調査項目は以下である。

- ① 担当者職種等
- ② 口腔ケアの実施の有無、内容
- ③ 口腔ケア後の報告の有無と方法
- ④ 口腔評価及びケアの実施場所
- ⑤ 口腔評価に用いるツール
- ⑥ 口腔有害事象の評価方法
  - 口腔乾燥：患者主観、客観（視診、検査）
  - 口腔カンジタ症：視診、培養、鏡検
  - 口腔粘膜炎：視診、CTCAE等
  - 口腔衛生：視診、PCR、OHI、歯周病検査
- ⑦ 口腔有害事象への対応方法
- ⑧ 口腔ケアの主な使用物品
- ⑨ 口腔咽頭吸引実行の可否
- ⑩ ケアの頻度（日、週、月）
- ⑪ 終末期がん患者の予後予測法（PPI、PaP等）
- ⑫ 口腔ケアを中止する症状（せん妄、嘔気等）
- ⑬ 口腔ケア介入を終了するタイミング
- ⑭ 対応に困った口腔有害事象
- ⑮ PEACE緩和ケア研修会受講の有無

## 3. 期待される成果

各職域で行う口腔ケアマニュアルを作成して、職種間コミュニケーションが円滑になり、地域での終末期口腔ケアが充実し、死の質向上に貢献できる。